

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年5月13日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872000948		
法人名	株式会社 キュート		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	3階
所在地	〒305-0861 茨城県つくば市谷田部3393-1		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872000948-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872000948-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年12月12日	評価機関 決 済 日	平成26年4月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切にする・地域の人達の交流に参加する」を理念とし、利用者が穏やかにその人らしい生活ができるよう全員で努力している。利用者が興味を持っているものを尊重し、書道や絵画、園芸、製作、漢字や計算ドリルなどそれぞれが希望することを継続して行えるように、またその意欲がなくならないように支援している。皆で楽しめるイベントと季節を感じられるレクリエーション、お菓子作りなどを織り交ぜながら、利用者一人一人の生活の中に楽しみが増えることを願い、職員は介護にあたっている。近隣の施設との交流会、市のペタンク大会、その他のイベント、パチンコ体験（パチンコ店の協力）など、施設外での活動も増え、生活の幅が広がっている。その時々様子を写真に残し、職員・利用者と共に楽しみながら個人の思い出のアルバムを作っている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者を中心に職員同士がコミュニケーションを図りながら理念に基づいた支援に努めており、利用者が安心して穏やかな生活ができるよう支援している。</p> <p>食材の宅配業者を定期的に変え、変化のある食事が提供できるよう工夫しているほか、利用者の誕生日には希望する外食に同行するなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。</p> <p>毎月の行事担当職員が利用者の希望を取り入れた外出計画を立てており、初詣を始め季節の花見や大洗海岸、柴又帝釈天などに貸切バスを使用して車いす使用の利用者も含め、利用者職員が全員で出かけるなど、外出の機会を多く設けている。</p> <p>居間や廊下、階段の踊り場など様々な場所に利用者や職員が制作した季節行事にちなんだ手芸品や工作作品を飾っており、折紙や布で作った小さな花をまとめて一つの大きな花を表現した立体感のある大作も利用者職員が協力し合って制作している。</p> <p>代表者は地域包括支援センターから依頼を受け、事業所に「認知症よろず相談所」を設置しており、地域の高齢者や家族の相談を受けるなど、地域と密着した事業所となっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人達の交流に参加します」の理念を掲げ、地域で行われる行事（凧揚げ・芋ほり・イベント・祭りなど）には積極的に参加し、地域の方と交流する機会を作っている。	「思いやりと笑顔を忘れず、一緒に過ごします」や「一人ひとりの生き方を大切にします」、「地域の人たちとの交流に参加します」との理念を作成し、玄関と各ユニットの居間に掲示するとともに、月1回開催する全体会議で確認し合い、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧を回してもらっている。防犯パトロールのベストを着用し、近隣の散歩に出かけることもある。住民の方とはあいさつを交わしたり、野菜や花をいただいたりすることもあった。	自治会に入会し、地域の清掃活動に利用者と職員で参加しているほか、散歩の際は自治会から配給された「防犯パトロール」のジャンパーを着て、小学生の通学の見回りをしている。地域で開催される秋の音楽祭やじゃがいも堀などの行事に利用者は積極的に参加し、ペタンク大会では優勝している。事業所の広い敷地を地域の人々に開放しており、利用者はペタンクの練習に来ている近隣住民と交流している。保育園児や演芸ボランティアが来訪しているほか、専門学校の学生や中学生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、認知症の家族や本人を支援し地域の方々に認知症の理解と協力を得るためのキャラバンメイトの講習を受け、地域貢献の準備を整えている。つくば市からの依頼もあり、『よろず相談所』として、地域の相談窓口を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは区長・民生員・家族・市役所職員など。年度初めには昨年の事業報告と今年度の活動予定を報告している。会議で出た意見をサービスの向上や地域との関わりに活かしている。	運営推進会議は市職員や区長、民生委員、事業所の代表者で3ヶ月に1回開催しているが、市職員の参加が少ないほか、地域の代表者も欠席する場合があります。全委員の参加を得て活発な意見交換を行うまでには至っていない。市職員が参加し易いように運営推進会議を平日に開催しているが、平日の開催では家族等の参加が難しく、家族等は運営推進会議に参加していない。会議では利用者の様子や事業所の運営状況を報告するとともに、議事録を作成し、参加者名や議題を記載しているが、話し合った内容を記録に残すまでには至っていない。	運営推進会議に市職員や地域住民、家族等が毎回出席できるように日程調整をするなどの工夫を期待する。運営推進会議の議事録は、議題だけでなく話し合った内容を記載することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での関わりのほかにも、高齢福祉課や地域包括支援センターなどと連携をとりながら、協力関係を築いている。	代表者は頻繁に市役所を訪問しており、その際に市担当者と情報交換をしているほか、利用者に関する相談をしたり助言を得たりしている。 管理者は毎月市役所内で開催する地域密着型サービス連絡会で市担当者と話し合い、事業所の利用状況を伝えたり意見交換をしている。 地域包括支援センターの依頼を受け、「認知症よろず相談所」となることを引き受けるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、つねに意識できるように、職員室の壁に貼っている。施錠に関しては、2階、3階は入り口のすぐ近くに階段があるため、安全を考慮し、施錠をしているが、利用者の希望があれば対応し見守りの支援をしている。	契約書に身体拘束や行動制限を行わないことを明記するとともに、身体拘束排除マニュアルを作成しているが、職員研修を実施するまでには至っていない。 全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解しているが、やむを得ないと判断した場合に限り、家族等に書面で同意を得たうえで身体拘束を行う場合がある。 身体拘束をする場合の同意書や経過観察記録、検討記録の書類一式を整備している。 玄関は施錠せずチャイムを設置しているほか、2階と3階の入り口は安全を考慮し、家族等の了承を得て施錠しているが、利用者の希望があれば解錠している。	身体拘束排除に向けた研修を定期的実施し、利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしができる支援に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待をしないという共通認識を再確認し、防止に努めている。職員間の認識の違いが見られることが時々あるため、具体的な事例などを提示しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年1年では、その学び・活用の機会はなかった。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の重要な説明は利用者や家族の不安や疑問点がないか確認しながら丁寧に説明し、理解・納得をはかっている。	/		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、自由に記入できるように準備を整えている。また、家族の面会時やケアプラン送付時などにも意見や要望がないか確認している。	玄関に意見箱を設置しているほか、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、玄関に掲示している。 利用者からは、日常の問い合わせや会話の中から要望を聴いている。 利用者や家族等から個人のケアに関する要望は出ても、運営に関する意見や要望は出ていないが、事業所では家族アンケートを実施したり、家族等との面談や来訪時、電話連絡の機会に話を聴き、意見や要望の汲みあげに努めている。	/	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見を出せて話し合いしやすい雰囲気作りを心掛けている。職員からの意見や提案、相談などがあれば随時聞き、内容について検討し、反映させられるよう努めている。	管理者は月1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、日頃から何でも話せるようコミュニケーションを図っている。 職員からの提案を受けて勤務体制を見直した結果、休憩時間が公平に取れるように改善されたり、パートタイマー職員の時給が見直されるなど、職員にとって働きやすい職場環境となっている。 「利用者が平等に買い物に行けるよう改善したい」や「事業所で飼育している犬の飼い方への提案」など、職員から出た意見等をその都度話し合い、運営に反映させている。	/	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	レクリエーション・係活動で職員一人一人が責任を持って取り組めるように担当制を導入した。職員の努力、実績、勤務態度を把握し、やりがいが持てるように責任をもってもらい職場環境・条件の整備に努めている。	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当職員を置き、施設内外の研修を積極的に勧めていけるようにした。研修の案内を職員の目に触れるところに掲示し自主的に研修にいけるようにしている。8月には介護の基本となる接遇研修を外部講師を招いて行うことが出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会を通じた交流や勉強会に参加している。そこで、事例を検討したり、意見交換したりすることが、職員の意欲を高め、サービスの質の向上につながっている。近隣の施設間で交流会の機会を作り、利用者・職員がお互いの施設を訪ねレクリエーションを楽しむことが出来た。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して施設生活が送れるよう本人や家族の話に耳を傾けている。自分の思いを積極的に伝えられない利用者とは、話しやすい雰囲気作りを心掛け会話の中から困りごと、不安、要望などをみつけている。本人が安心できるよう関わり信頼関係が築けるよう努めている。その時の表情、様子、変化を観察し記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮し気兼ねなくゆっくり話ができるよう個室で話を聞くようにしている。家族等が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要な支援について話し合い、健康に関すること、衣食住、意欲や気持ちに関することなど多方面からアセスメントし、適切なサービスが速やかに行えるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線に立ち、出来ることを共に行っている。家庭的な生活が送れるよう、本人に合わせた活動（調理、洗濯物たたみ、裁縫、ドリル、散歩、買い物など）を取り入れながら関わっている。利用者から、生活の知恵や家事のアドバイスをもらう事もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には可能な限りの面会や電話の対応などを通じ、本人との関わりが出来るだけ継続できるようお願いしている。面会時は、居室やホールで、ゆっくり時間を共有していただいている。職員は利用者の日々の様子を家族に伝えている。イベント等の参加を通じ、家族の時間を大切にしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。連絡をとりたいとの希望がある時は、電話で話が出来よう支援している。携帯電話を所持している利用者には使用の支援を行っている。また、家族や知人などが面会に来やすい雰囲気を作っている。	利用者の家族等や親戚、知人が来訪した際には、好きな場所でゆっくり話ができるよう配慮している。 週2回職員が買い出しに行く機会に利用者も一緒に行けるよう支援しており、利用者は馴染みのスーパーで自身の買い物を楽しんでいる。 利用者の馴染みの場所に職員が同行できない場合は、利用者の思いを家族等に伝え、家族等の協力を得ながら墓参りに行ったり、行き付けの理容院の継続利用や馴染みの店での外食などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席は、利用者同士の関係を把握し、お互いが心地よく過ごせるように配慮している。また、階にこだわらず1階から3階の利用者同士の行き来もあり、利用者同士が自由に関わりあえる環境にある。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった利用者に対しては、これまでの生活が継続できるようホームでの生活の様子やケアの工夫など必要な情報を伝え、経過を見守っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握は、その方の言葉だけでなく、表情や、行動からの観察も合わせて行い、その情報は職員間で共有し、利用者にとってより良い方法を検討している。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、会話や表情などから思いや意向の把握に努め、信頼関係を築きながら利用者の思いにそった支援ができるように努めている。 ペタンクや習字など、利用者一人ひとりの希望にそった趣味活動ができるよう支援したり、職員と一緒にいうちぎり絵や季節の作品作りなど、やりたい時にやりたいことができるよう支援している。 思いを表せない利用者の場合は家族等から話を聞いたり、利用者の表情やしぐさから思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人、家族から、聞き取りをしたり、入所前に利用していたサービスに関しては前のケアマネより情報をもらい、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に1日の様子、変化、活動などを毎日記録している。大事なこと（心身状態の変化）は必ず申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを必要の関係者で行い、現状に即した介護計画を作成している。課題が上がった時は必要な関係者と話し合い、柔軟に意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画の実践に役立てている。家族の同席は時間の関係でなかなか難しいが、希望を聞き介護計画に取り入れている。	利用者や家族等の意向や要望を聞いたり、職員の意見を取り入れ、計画作成担当者がモニタリングを実施して介護計画を作成しているが、アセスメントやカンファレンスを実施するまでには至っていない。 短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月と期間を定め、設定期間毎に介護計画を見直すほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直している。 介護計画書は家族等に郵送し、家族等が確認後返信してもらっている。	利用者がより良く暮らすための介護計画になるよう、全職員でアセスメントやカンファレンスを実施し、記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫をそれぞれ整理して記入できるようにし、職員間で情報を共有して、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化により、必要な通院の介助をしたり、出来る限り柔軟に対応している。利用者の必要に応じた福祉用具について取引業者に相談することもあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物に行ったり、近隣で行われるイベントにも参加できるようにしている。散歩の際に、季節の植物に触れたり、本人が楽しめる暮らしが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医師の受診を支援している。受診に際しては、必要な情報を伝えている。また、緊急時には、直接かかりつけ医に電話で相談し、支持を仰ぐこともある。	利用者や家族等が希望する医療機関への受診を支援している。 協力医療機関への定期的な受診を支援しているほか、月2回個人のかかりつけ医による訪問診療を受診している利用者もいる。 受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等が付き添えない場合は職員が同行したり、家族等付き添いの受診でも依頼があれば職員が同行し、利用者の状態を医師に伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの協力を得て、24時間、医療連携が可能になった。週1回の看護師の訪問時には、介護職員は利用者の健康面の変化やいつもと違う点などを伝え、相談している。また、お互いの情報が共有できるように、連絡ファイルを活用している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から良い関係づくりを心掛け、入退院時は、安心して治療ができ、早期退院につながるようお互いに必要な情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人家族と話し合い、家族の意向や、主治医の意見を確認しながら、方針を共有し支援に取り組んでいる。	利用者の急性期における医師や医療機関との連携体制について明記した「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 体調の急変などにより医療的措置が必要とされる状態になった場合には、段階毎に家族等や医師と看取りに向けて話し合い、医師の判断を仰ぎながら看取りを実践している。 職員は重度化した場合の対応や看取り介護について、提携している医療機関の看護師による研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	9月に救命講習や応急手当の方法について消防署職員の指導を受けた。夜間の急変時の対応についてはマニュアルを職員全員が見られる場所に掲示し、職員が慌てず対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に数回、火災や地震に備えての避難訓練を実施し、非常時に対応できるように備えている。日中、夜間両方の想定で避難訓練を行い、よりよく実践できるよう振り返りを随時行っている。また、自治会を通して地域の方たちの協力もお願いしている。また、災害時に備え非常食も備えている。	年1回消防署立会いの総合訓練を実施しているほか、夜間想定を含めた事業所独自の避難訓練を年1回実施しているが、避難訓練実施記録を作成するまでには至っていない。 隣接している企業や近隣住民、区長、民生委員に、災害時には協力してもらえるよう口頭で依頼をしているが、避難訓練に参加を得るまでには至っていない。 米や缶詰のソフトパン、レトルト食品、飲料水、ヘルメット、懐中電灯を備蓄するとともに、おむつなどの衛生用品は常に多く在庫を備えるようにしているが、備蓄品の一覧表を作成して管理するまでには至っていない。 事業所には井戸があるが、停電に備え発電機の購入を検討している。	運営推進会議などを通して近隣住民に避難訓練への参加を呼びかけることを期待する。 避難訓練実施記録を作成するとともに、備蓄品の一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は認知症であるまえに人生の先輩であり、人としての気持ちがあることを忘れず、関わることを心掛けている。言葉を掛ける時、聞くときは、目線を合わせ、誇りやプライバシーを損ねないように気を付けている。	職員は利用者に対する呼び方や言葉遣いなどに配慮するとともに、一人ひとりの人格を大切に考えながら支援している。 トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないように対応し、排泄の失敗の時はさり気ない言葉かけでトイレや居室に誘導している。 写真の広報誌への掲載や事業所での掲示について、書面で同意を得るまでには至っていない。 個人情報を含む書類は事務室の書棚に保管しているが、受付窓口から見えるため、現在保管方法を検討している。	写真の掲載や掲示について、書面で利用者や家族等の同意を得ることが望まれる。 現在検討している個人情報を含む書類の保管場所については、早期改善に努めることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から思いを気軽に話せるような関わりを心掛け、利用者が思いや希望や自己決定をしやすくなるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、一人一人のペースを大切にし、楽しみのある生活が送れるよう、一緒に考えその日の過ごし方を決めている。ドライブや散歩の希望があれば、可能な限り希望に添えるよう関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室・洗面所には鏡があり、身だしなみはいつでも確認でき、その人らしい身だしなみやお洒落ができるようになっている。また、訪問美容室でも利用者の希望に添うように髪を切ってもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のしたい気持ちを尊重し、食事が楽しみなものになるように、野菜を切ったり、皮をむいたり出来ることを共に行っている。食事と同じテーブルでとり、同じ食事を味わいながら、楽しい時間として過ごしている。配膳、片付けも出来る限り共に行っている。	職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事できるように支援している。 宅配業者によるカロリー計算された食材が届き、ユニット毎に職員が調理しているが、定期的に宅配業者を変えて献立が多様になるよう工夫している。 自家菜園で収穫した野菜を活用したり、行事食を取り入れたりして献立に変化を持たせるほか、利用者の誕生日には希望を聞いて外食したり、店屋物をとったりして、食事が楽しめるよう支援している。 利用者は能力に合わせて食材の皮むきや下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や病気に合わせた支援を行っている。糖尿病の方は、炭水化物は糖分を取りすぎないように注意したり、全体的に水分摂取不足の傾向にあるため、居室にボトルを用意しいつでも水分が飲めるようにして、水分摂取の声掛けや量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし、うがい、ブラシ磨き、ポリデント使用などその人に合った準備、支援をしている。一人では難しい利用者には職員が付き添い声掛けしながら自分で磨いてもらい、うまくできないところを職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	支援の必要な利用者には排泄チェックを記入し、時間を見計らい声掛けしトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間トイレが頻回で歩行が不安定な利用者は居室にポータブルトイレを設置し、使用して頂いている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めてトイレ誘導をしたり、利用者の様子から声をかけたりして、トイレでの排泄を促している。 職員の適切なトイレ誘導と排泄の自立に向けた支援により、紙パンツ使用から布パンツ使用に改善した事例もある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように配慮したり、野菜を多く摂取できる食事を提供したり、乳製品も定期的にとれるようにしている。どうしても便秘傾向になってしまう方には、医師と相談し内服薬を調整し個々にあった排便があるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきという入浴が習慣になっている。入浴が楽しめるように、入浴剤を変えたり、5月には菖蒲湯、冬至にはゆず湯を用意し季節が感じられるようにしている。利用者が入浴した事を満足できるように個々に応じた入浴を支援している。	入浴は一日おきとしているが、風呂は毎日沸かすため、利用者の体調や希望にそった入浴を支援している。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけするなど、工夫して入浴ができるよう支援している。 柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れ、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に応じて、休んだり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。夜間0時以降起きている時は、入眠を促し日中の活動の妨げにならないように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬については、各職員は、目的、副作用、用法などを理解している。また、服薬ミスを起こさないよう、声だし確認、二重チェックを行っている。服薬時は薬を手渡しし、口に入るまで確認している。薬の変更があった時は、様子の変化に注意して観察記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることが継続できるように、役割を持って生活して頂いている。(食器の片付け、テーブル拭き、洗濯物干し、たたみ、食事の号令など)又、レクリエーションとして製作、書道、塗り絵、パズル、トランプ、カルタ、オセロ、ビデオ鑑賞、漢字・計算ドリルなどが出来るよう準備し、利用者が個々に楽しみごとを選べるようにしている。買い物、散歩などに誘ったり利用者の体調や気持ちに応じ支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添って、戸外に出かけられるよう支援するよう心がけている。～に行きたいとの具体的な申し出はあまり聞かれないが、職員が働きかけることで参加できることが多く、気分転換が図れている。近隣のイベントへの参加も外出支援の一つとなっている。	天気の良い日は事業所の敷地内や周辺を散歩しているほか、週2回職員が買い出しに行く際には利用者と一緒に出かけ、外出の機会を増やしている。 行事担当の職員が、毎月利用者の希望を取り入れた計画を立てており、初詣を始め桜やコスモス、ポピーなどの花見のほか、大洗水族館やバスを貸し切って葛飾区にある柴又帝釈天に車いす使用の利用者も一緒に出かけられるよう支援している。 利用者が希望する外出先に職員が同行できない場合は、利用者の思いを家族等に伝え、家族等の協力を得ながら外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、小遣い程度のお金を所持して頂いている。自己管理出来る利用者は所持だけでなく買い物などの支払いが出来るよう支援している。基本的にお小遣いは職員室管理しており、必要な時は用意できることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時はすぐ電話できるように対応している。家族からの電話をすぐに本人に取り次いで話せるよう支援している。手紙を頂いた時や、手紙が書きたいときはいつでも書けるように準備をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は清潔にし、適温で過ごせるように管理している。季節感のある飾り付けや花を飾ったり、作品や、行事ごとの写真を掲示したりしている。トイレは時間を決めて掃除をし気持ちよく使用できるよう心がけている。フロアの一角に観葉植物や、鉢植えの花なども置き、季節を感じられるようにしている。また水遣りなどをしてもらい、成長を楽しめるようにしている。	採光のよい共用空間は清潔に保たれており、玄関や廊下、居間には季節の花が飾られ、居心地のよい空間づくりをしている。 居間の一角には移動式の畳スペースやソファを配置するとともに、階段の踊り場には花や籐椅子も配置している。 居間や廊下の壁には、利用者と職員と一緒に制作した季節の花をテーマにした作品やクリスマスの装飾品が飾られている。 行事の写真を1枚ずつ額に入れて飾ったり、廊下にプランターを置いて利用者が花を育てるなど、一般家庭と同じ雰囲気で見守る空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カウンターや、畳スペース、ソファ、食卓などがあり、利用者は好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態や、入所前の習慣、希望に応じて、仏壇、タンス、畳、フローリング、ベット、布団、コタツ、椅子など、馴染みのものを置いて居心地よく、安心して生活できるようにしている。仏壇に、毎日手を合わせる利用者もいる。	居室にはエアコンやベッド、整理箆笥が備え付けられている。 利用者は居室に仏壇など大切な物品を持ち込んだり、テレビや本箱付机、籐椅子、ミシン、洋服かけ、鏡台などを配置しているほか、時計やカレンダーを置いたり、家族の写真や人形を飾ったりして、自立しながら自由に居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には靴箱のとなりにベンチを設置し、利用者が安全に靴のはき替えが出来るようになったが、ベンチが狭いため、利用者同士お互いを気遣い譲り合う場面も見られた。廊下、トイレ、浴室などには手すりがある。トイレや居室は分かりやすいように、大きく名前を貼ったり、目印をつけて場所の混乱を起きにくくしている。ホールにも洗面台が取り付けられ手洗い、歯磨きもスムーズに行えるようになった。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたんぼぼ

作成日 平成26年 5月 12 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	写真の掲載や掲示について書面にて利用者や家族等の同意を得ること	今月中に書面にて同意を得る	今月の請求書送付時、又は家族交流会を利用し書面にて同意を得る	1ヶ月以内
2	26	利用者がより良く暮らすための介護計画になるよう全職員でアセスメントやカンファレンスを実施し利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしが出来る支援に取り組む	職員全員で関わり話し合いの結果を記録に残す	利用者の変化に伴う話し合いをユニットごとに担当者を決め職員全員が関わるようにする。話し合いの記録用しを作り保管する	2～3ヶ月
3	6	身体拘束排除に向けた研修を定期的実施し利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしが出来る支援に取り組む	施設内での定期的研修を実施する	カンファレンス等での話し合いの中だけでなく研修として定期的に勉強会を行い記録に残す	1年間
4	35	災害対策近隣住民へ避難訓練の参加呼びかけを行う	近隣の方々に理解協力して頂き合同での避難訓練を行う	運営推進会議などを通し近隣の方々へ協力呼びかけをし最低年1回は合同訓練を行う備蓄一覧、記録の管理を徹底する	〃
5	4	運営推進会議の取組み方を見直す	運営推進会議の有効活用	毎回同じメンバーでなく家族、地域住民の幅広い参加の呼びかけをする会議内容の工夫	〃

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。